

米大手ハイテク株は年内に最高値更新なるか？



シニア・ストラテジスト 石黒英之

ポイント① 8月に入りNASDAQ100は調整基調

ハイテク株主体のNASDAQ100は8月に入り22日までに5.4%下落するなど調整基調にありますが、今年に入ってから7月末までの昨年末来上昇率が44.0%だったことを考えると、調整は軽微といえます（右上図）。NASDAQ100の足元の調整の背景には、①好業績を事前の株高ですでに織り込んでいたこと、②米長期金利の上昇によるバリュエーション調整圧力の影響を受けたこと、などがあります。

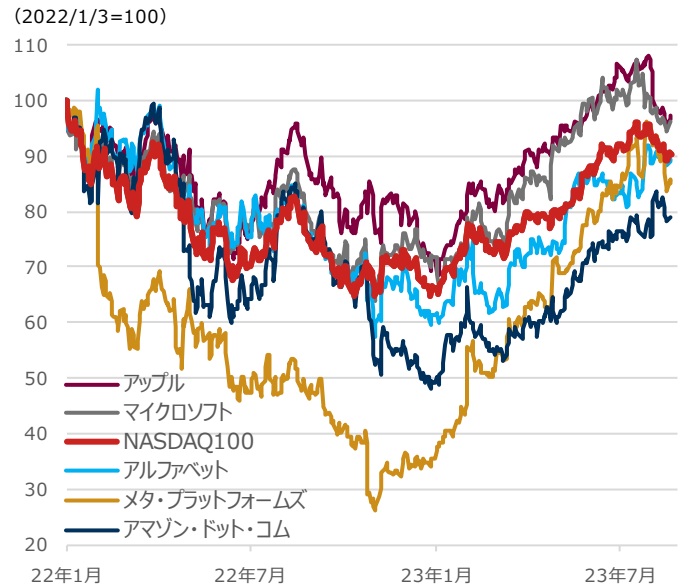
市場ではFRB（米連邦準備制度理事会）の高金利政策が長期化するとの観測が広がっており、米大手ハイテク株の逆風になるとの見方もあります。ただ、GAFAMを始めとした米大手ハイテク株はフリーキャッシュフローが潤沢で金利コスト上昇の影響を受けづらいとみられるほか、米長期金利の高止まりによるバリュエーション調整圧力も利益成長でカバーできるとみられ、株価の戻りは続くと考えられます。

ポイント② 米ハイテク株は年内に最高値トライハ

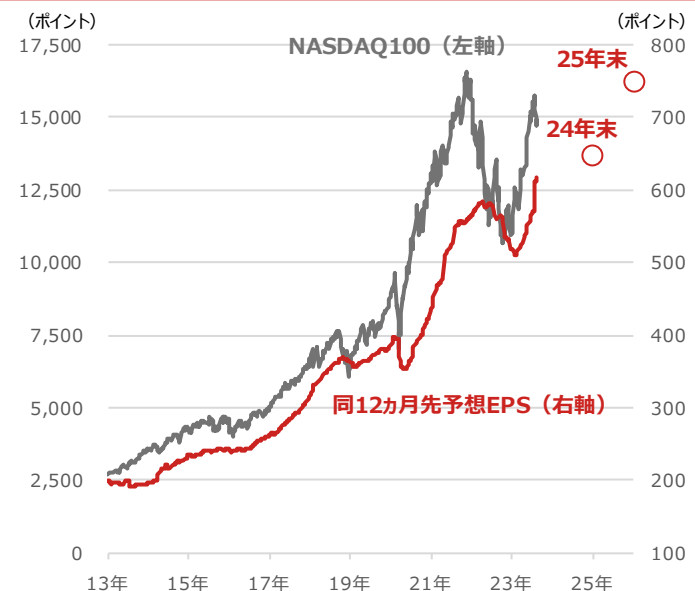
米景気が想定以上に底堅いことや、生成AI（人工知能）といったハイテク分野の成長を後押しする技術革新が生まれたことなどもあり、NASDAQ100の12か月先予想EPSはここにきて過去最高益を更新し、25年末にかけても一段の利益拡大が見込まれています（右下図）。ただ、NASDAQ100は未だ最高値更新とはなっておらず、これは米大手ハイテク企業の業績拡大・株高シナリオに懐疑的な投資家が多いことを示しているのかもしれませんが。

米国時間23日の引け後には米半導体大手エヌビディアが23年5-7月期の決算発表を行ないます。市場では米テクノロジー業界の拡大を裏付けるような内容が見込まれており、米大手ハイテク株を見直すきっかけとなる可能性があります。

GAFAMとNASDAQ100



NASDAQ100と12か月先予想EPS（1株当たり利益）



個別銘柄の記載は、特定銘柄の売買などの推奨、また価格の上昇や下落を示唆するものではありません。

*当資料は、一部個人の見解を含み、会社としての統一見解ではないものもあります。

当資料は、投資環境に関する参考情報の提供を目的として野村アセットマネジメントが作成したご参考資料です。投資勧誘を目的とした資料ではありません。当資料は市場全般の推奨や証券市場等の動向の上昇または下落を示唆するものではありません。当資料は信頼できると考えられる情報に基づいて作成しておりますが、情報の正確性、完全性を保証するものではありません。当資料に示された意見等は、当資料作成日現在の当社の見解であり、事前の連絡なしに変更される事があります。なお、当資料中のいかなる内容も将来の投資収益を示唆ないし保証するものではありません。投資に関する決定は、お客様自身でご判断なさるようお願いいたします。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡します投資信託説明書（交付目論見書）の内容を必ずご確認ください。